

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2020.12.10

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

いよいよ冬か、まだ秋か？



石神井川緑道に面する資生堂美容学校の裏庭は今イロハモミジの紅葉が素晴らしいです。その隣でヒイラギナンテンの花が咲き始めました。ヒイラギを漢字で書くと木偏に冬=終ですからなるほど



冬の花。写真ではヒイラギナンテンが日陰になってしまっているのですが、その黄色とコントラストをなして実にあでやかな一角でした。(右の写真は別のアングルでバックの赤がイロハモミジ。)

園芸種が野生化したものですが、**ラベンダー**や**オキザリス**(カタバミの園芸種)も咲き始めました。「こんなに寒くなってきたのに、どうして今頃咲き始めるの？」と思って去年までの開花記録を見てみたら、ラベンダーは2017年には12月の初めに開花、オキザリス(黄花)



も例年11月の終わるか12月の初めに咲きだして、翌年4月~5月ごろまで咲いていましたから、これらも比較的寒い季節に咲く花だったのでした。



温暖化とは、春が早く来ることばかりではなくて 秋が長く続くことでもある



さて、石神井川の川面では北からやってきた渡り鳥のマガモ、コガモ、キンクロハジロなど主要種が勢ぞろいして、ユリ



カモメも上流まで舞ってくるようになりました。川面はもう寒々とした冬模様。

このレポートの10/30号でお伝えした春の花のヒュウガミズキ（右の上）ですが、あの時は1輪咲いてあとは瑞々しいつぼみでしたが、12/10にはその蕾もしぼんでしまったようです（右の下）。



ところが、開花期が過ぎたはずのオシロイバナがまだ咲いていました。過去の記録を調べると、2016年当時から年を追って開花が早くなり終わりの時期は遅くなっていました。開花も終了も前年より1週間から2週間早まり、かつ遅くなっているのです。



温暖化の問題でこのレポートは通年で咲く植物が増えていることや春の植物が前年の秋か初冬に展葉する「異変」を伝えてきましたが、秋が長引く、つまり冬の到来が遅くなることによる植物の開花時期の変化も注意深く観察する必要があります。

これまで観たことがない種を発見！ ジンコウシバ???



前回の観察の時だったのですが、帰り道に観察エリアではない対岸の緑道を歩いている時でした。新しく建ったマンションの自主管理緑地帯に今まで見たことがない植物を発見しました。

きれいに背丈を揃えて生えていて、しかも四角に広がっています。「何だ？ こりゃ！」と叫んだら、同伴者がこともなげに「ジンコウシバではないですか」と答えました。その同伴者は植物観察はほとんど初心者なのですが、たいした眼力だと感心しました。記録表にもジンコウシバを加えようかしら・・・。

※予定した12/25の石神井川観察は「板橋区緑と公園の推進会議」の会議が入ってしまいましたので中止、今年の石神井川緑道のみなさんにお伝えして行う観察はこれで終了です。